

隙の開大や静脈性腫瘍血管を多く認める傾向にあった。Lp-TEA 治療効果との比較では、High type, Iso type, Low type の順に有意に良好な治療効果を認め、治療効果予測が可能であると考えられた。

### 36. GM-CSF 遺伝子導入による食道癌遺伝子治療の基礎的検討

菅谷 睦 (千大)

ヒト食道癌培養細胞株 (T. Tn) にレトロウイルス感染法により GM-CSF 遺伝子を導入した。この細胞は十分なサイトカイン産生をみ、*in vitro* での増殖に親株と変化はなかった。一方 *in vivo* には腫瘍の退縮を認め、組織学的検討からこの増殖抑制にはマクロファージの関与が示唆された。また GM-CSF 導入 T. Tn の局注は親株腫瘍の退縮を引き起こし、今後の食道癌遺伝子治療に有効と思われる。

### 37. MRI Phased array coil による大腸癌深達度診断

中島光一 (千大)

Phased array coil を用いた、MRI Gd-DTPA 造影 T1 強調像にて、大腸癌深達度診断の検討を行った。粘膜下への標識注入により、大腸壁像の内腔側の高信号層 (第1層) は粘膜下層、外側の低信号層 (第2層) は固有筋層に相当することが明らかとなった。腫瘍による、第1層の断裂を認めないものを m, sm, 第1層の断裂を mp, 第2層の断裂を ss, se, 他臓器の不整な変形を Si の所見とすると、切除例42例中39例 (93%) で組織所見に合致した。

### 38. BCL6 遺伝子の機能解析

吉田武彦 (千大)

BCL6 遺伝子は、ヒト B 細胞リンパ腫の転座部位よりクローニングされた遺伝子である。マウスの BCL6 遺伝子もヒトと95%相同であり、その発現はヒトの BCL6 と同様に、各臓器において ubiquitous に発現が認められる。この BCL6 遺伝子の機能を解析する目的でノックアウトマウスを作製したところ、そのほとんどが9週齢以内に著明な心拡張と好酸球の浸潤を伴う心筋炎を発症して死亡した。

### 40. 骨盤内の後腹膜に発生した神経鞘腫の1切除例

赤井 崇, 谷口徹志, 伊藤 靖  
清水英一郎, 原 壮  
(清水厚生)

症例は71歳, 女性。腰痛と左下肢のしびれにて整形

外科に通院。腹部超音波検査にて偶然骨盤内腫瘍を発見された。既往歴, 家族歴に特記すべきこと無し。採血上腫瘍マーカーを含め特に異常無し。腫瘍は CT 上内外腸骨動脈を背側より圧排し, MRI 上 T1 で high, T2 で low の多胞性腫瘍であった。血管造影では腫瘍血管は認めなかった。神経原性腫瘍の診断で手術を施行した。術後の病理組織検査上 Antoni 分類 A 型の良性神経鞘腫であった。

### 41. 肉腫様変化をきたした肝内胆管癌の1例

大平 学, 川村 功, 高石 聡  
田中 元, 菊地浩之, 森川丘道  
趙 明浩, 伊藤泰平

(下都賀総合・外科)

蛸沢克己 (同・形成外科)

五月女茂 (同・病理)

近藤洋一郎 (千大・2病)

近藤福雄 (船橋中央・病理)

症例, 72才男性。主訴, 上腹部痛。肝内側区域および前区域に, 超音波にて mixed echo pattern, 単純 CT にて low density, 造影 CT にて辺縁一部 enhance, MRI にて T1 強調で low, T2 強調で high intensity を示す腫瘍を認めた。切除標本の組織像は肉腫様を呈し, 免疫染色にて肉腫様変化をきたした肝内胆管癌と診断された。本邦報告15例につき文献的考察を加えた。

### 42. 大腸癌術後8カ月に大腸不整狭窄をきたしクローン病を疑われた1例

羽成直行, 向井 稔, 中村 宏  
望月亮祐 (鴨川市立)

症例は53歳男性。平成8年12月大腸癌にて下行結腸部分切除術施行。平成9年8月より肛門部痛出現。下行結腸吻合部に不整狭窄, 下部直腸に潰瘍面伴う壁不整, S 状部に縦列するアフタ, 及び肛門部膿瘍を認めた。生検で非乾酪性肉芽を認め悪性細胞は証明されなかった。10月8日痔核切除術施行。1カ月後の再検査で腸管壁の不整は改善, 下行結腸の狭窄部に敷石様変化を認めた。大腸癌術後にクローン病を発症した一例と考えられた。

### 43. 慢性腎不全患者に発症した Gastric Antral Vascular Ectasia の1治療例

吉永有信, 小沢弘侑, 飯野正敏  
木村正幸, 二宮栄一郎, 浦島哲郎  
斉藤 剛 (沼津市立)

症例は57歳女性, 慢性腎不全の follow 中の平成元年6月, 上部消化管出血による著明な貧血を疑われ, 精査